

水辺のノート  
その2

## 安全で安心な川づくりをめざす天野川河川事業

取材先 / 大阪府枚方土木事務所

## 水と緑のネットワークづくり

天野川では、新たな河川事業として「水と緑のネットワークづくり」というタイトルのもと、地域の人々にやすらぎの場を提供する多自然型川づくりを積極的に展開しています。鵜橋～浜橋周辺には、桜づつみの整備を計画、天野川の春を彩る新名所となるよう現在、工事を進めています。また、上流部では交野市スポーツ文化センターの親水護岸工事の整備を実施。市民のアウトドアライフをより豊かなものにする事業を行っています。

## 天野川消防防災施設

阪神・淡路大震災をひとつの教訓に、天野川の豊富な水の量に着目し、平成9年、新しい工夫をこらした消防防災施設を新天野川橋の下流に建設しました。この施設は、ふだんは人々の憩いの場となり、非常時には消防施設としての機能を果たす全国でも初めての多目的な河川施設です。それでは、「天野川消防防災施設」の4つの工夫をご紹介します。



防災用水確保のための河岸整備イメージ図



防災用ピット全景

- 1 川の中に水を貯める「防災ピット」を設け、そこから側溝(透水コンクリートのふた付)を通して両岸の「集水ます」に水を集め、非常時に取水できる仕組みになっています。また、「集水ます」には消火栓の役目をする集水器を設け、よりスピーディに取水できるようにしました。
- 2 非常時の消防活動のために、堤防上から高水敷へ消防自動車スムーズに乗り入れられるように坂路を設けました。
- 3 坂路は、子供やお年寄りが安心して水辺に近づけるように、『福祉のまちづくり条例』に基づいてゆったりと設計しました。
- 4 『多自然型川づくり』の観点から多自然型護岸工法を採用しました。治水、利水、環境保全に加え、災害に強い街づくりという重要な役目をこなすこの施設は、消防関係者から大きな期待を寄せられるとともに、災害に備えての川づくりとしては全国初の「全建賞」を受賞しました。